

アコと人生…この人にインタビュー《第16回》「^{みつたけ}満武直人さん」

今回は、最近アコーディオン漬になっているとおっしゃる満武直人さんを紹介いたします。アコーディオンの他にもう一つ山歩きの趣味をお持ちで、山へ行くときには小型のアコーディオンを持って行って野外で弾くこともあり、仲間の歌の伴奏もなさって楽しんでいるそうです。世田谷区奥沢にあるご自宅にお邪魔をしてお話を伺いました。(取材日:5月20日・火 13:00~)

◎昭和14年10月、現在住んでいるここ、世田谷区の奥沢で生まれました。現在74歳です。

満武という姓は九州、佐賀県の村に多いんです。小学校へ行く前から小学2年の1学期までの3年間九州に疎開していました。終戦になり戻ってみると幸い自宅は無事でしたが家の周りには多くの焼け跡がそのまま残されておりました。

アコとの出会いは疎開先の村祭りでした

従兄にアコーディオンの好きな人がいて、終戦直後でしたが、疎開先の有田で村祭りがあったんです。戦争が終わったということで、若い人がいろいろな音楽をやって、最後に「支那の夜」みたいな歌をアコーディオン伴奏で歌ったんです。それが大喝采でね。「ああ、アコーディオンっていいもんだなあ」っていうのが幼少のころの記憶として頭にこびりついてます。

世田谷にもどり、家にオルガンみたいなものがあって遊んでいましたけど、音楽もそれほど好きな時間ではなかったしね、自分が生涯にわたってアコーディオンをやるなんて思ってもいませんでした。

高校卒業時にアコを買ってもらう

大学に入ったら何か趣味を持ちたいなと思ってたもんですから、卒業した3月、取りあえず興味を持っていたアコーディオン(ヤマハの18ベース)を買ってもらったんです。で、昭和33年4月、大学に入り「慶応義塾アコーディオンクラブ」に入ると「こんな小さなものじゃだめだ」と言われてね、120ベース(フロントリーニ)を買ってもらいました。

先に買った18ベースも、捨てるのはもったいないから大事にとっておいたら、後に山歩きの持つて行って弾くのに重宝しました。

記:昭和33年だとイタリア製の楽器は高かったですよ。

はい、7万8千円ぐらいしましたよ。私が大学を卒業した昭和37年の給料が1万7千円でしたから、良く買ってくれたと思います。

当時、大学で唯一のアコーディオンクラブだって先輩から聞いたことがあります。

記:アコーディオンを指導する方はいたんですか。

アコーディオンを習ったというクラブの先輩に教えてもらいました。基礎から練習するっていうんじゃなくて、とにかくその曲が弾ければいいという指導の仕方でした。また、合奏ではとにかくいきなりそのパートを弾かされるので練習は無論行うものの、十分ではなく初見が利かない私はついていけなくて飛ばしてしまうところもありました。むしろソロの方が、自分で思った通り、練習した通り弾けばいいから楽でした。

アコーディオンクラブを選んだ理由

音楽系の他のクラブは、小さい時から音楽をやってきた方が結構いて、もう稼いでいるような人もいましたから。そういうのは、自分ではあんまり波長が合わないというか敬遠していたんです。「タンゴバンド」とか「ジャズバンド」とか、ダークダックスがいた「ワグネルソサエティ」だとかね、ああいうところはレベルが高い

ですよ。それに比べて「アコーディオンクラブ」は素人っぽい所だったもんですから腕自慢っていう人はあまりなくて、みんな楽しめばいいんだっていう感じでした。(左の写真は当時のプログラムの表紙:1960年11月28日千代



田公会堂とある)

ピアホールの思い出

「ベルマンズポルカ」というピアホールが虎の門にありました。当時、勤務先の本社が近くにあったので仕事の帰りによく通いました。そこでは故、金子万久（金子元孝）氏がアコーディオンでドイツ民謡やシャンソンを弾いていました。

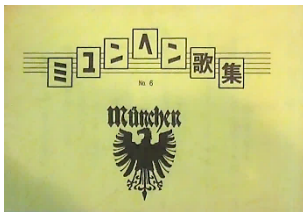
また、新橋に「ミュンヘン」というピアホールがあり、望月真也氏がアコーディオンを弾いていました。ボーカルの女性が2～3人いました。

うたごえ喫茶というのはまた別にあって、「ともしび」



(お店は毎日営業していた) 写真の歌集はミュンヘンで使っていた歌集です。当初は手のひらサイズでしたが、後にそれより少し大きめのものに変更されました。(第1版から第6版まで今でも所有しております)

とか、そういうところへも行きましたが、金曜日になると友達とピアホールへよく通いました。



自分用の歌集を作ってみた

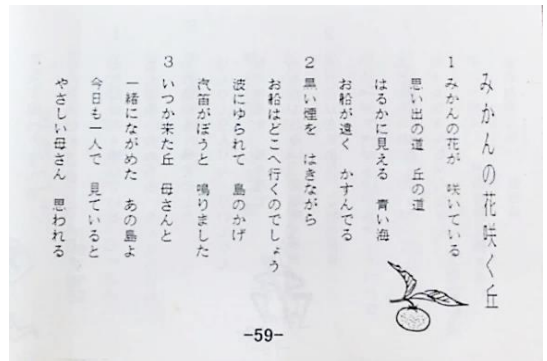
10年ほど前に、ミュンヘン歌集などを参考に自分用の歌集を作ってみました。これは、もう一つの趣味、



山歩きの仲間「山の会」のために25冊つくったのですが、それ以外にも今、ボランティア活動するときに非常に役に立っています。(上の写真は自作歌集の表紙)

丁度私と同じくらいの年齢の方がみんな知っている曲ですから。

記：童謡や唱歌を中心に250曲載っている。A5用紙を横長に使い1ページに1曲収めていて、活字も右段上の写真のように大きいので大変見やすく作られています。



山とアコーディオンはすごく相性がいい

私のもう一つの趣味は、山歩き仲間の中でアコーディオンを弾くことです。

勤めていた会社(NCR)の中に山歩きの会がありました。私はついていく方なんですけれど、アコーディオンも担いで行っただけ。みんな喜んで歌ってくれます。もともと仕事とは関係がない仲間たちですから退職した今でも続いています。山とアコーディオンってすごく相性がいいなって感じしますね。



(写真は50歳前後のスナップ:右端が満武氏)

アコーディオンが取り持つ縁での付き合い

「東京アコーディオン愛好会」ももとは「東京アコーディオンクラブ」と言って、金子万久（金子元孝）さんが主宰していたクラブですが、金子さんが退会されると名前を愛好会と変えて続いている会です。年3回ほどの会合があり、そのうち2回は湯河原で1泊の演奏交流会を楽しんでいます。(現在15名程)

他に、名古屋の故、山本章さんが主宰されておりました「ポップスアコーディオンの会」にこのところ10数年毎年参加させていただいております。関西の方ですから、私もお逢いするまで知りませんでしたが年配の方でしたらご存知の方はいと思います。山本

楽器を経営され、修理もなさっていた方です。小林靖宏氏(coba さん)は山本氏のアコーディオン教室に中高生時代に通われ、イタリー留学前はしばらく山本氏宅に下宿されていたそうです。

山本さんが亡くなられて、のちに奥様から送られてきた冊子を見ると東京以外でもアコーディオンが盛んだったことが分かります。全国にアコーディオン愛好者が散らばっていて、今でも毎年10月に蓼科のペンションに集まってきて2泊3日のアコーディオン漬けの夢のようなひと時を過ごしております。この集いには奥様も毎年出席されます。新潟から来たり奈良とか、東京からも何人か来ます。下の写真は今年の集いのスナップで、前列左から2人目が私です。

今年も参加します。プロ、アマを問わずみんなアコーディオンを持って集まるんですね。上手い方ばかりで私よりレベルが高いのでこの集いにも刺激になります。



“アコーディオン喫茶かるふー”は修行の場

「かるふー」に行くようになったのは、会社の仕事が一と段落付きはじめた70過ぎてからですが、今ではほぼ皆勤です。

主宰者の工藤絵里さんは、参加者全員を良い気持ちにさせて帰すべく気配りをする方で、この制度として皆さん、交流会で1曲ないし2曲弾くのが主体ですけれど、それは午後2時からで、いま、一時中断していますけれども、午後1時半から30分間だけ、代わり番にミニライブをやるんです。

私も昨年7月出させていただきましたけれども、そのためにものすごく練習しましたね。お客さんはみんなアコーディオンを弾く人ですから、練習する動機付けにはものすごくいいですね。ですから、練習するようになったのは「かるふー」のお陰です。また、ここでの縁で小美濃先生の「マリーネ楽団」に入れて頂いたり、若い世代とも楽しい交流が出来るようになり主宰者に感謝しています。

望月真也先生の隠れファンだった

谷口楽器の「サンデートーク」へ聴きに行ってもファンが取り囲んでいてなかなか近づけなかったのですが、退職を迎える頃になりようやく話す機会が持てました。望月先生は、だれでも知っている、ロズさむ童謡とか唱歌をさりげなく弾くんですけど、やっぱり基礎が違うんでしょうね、ムードたっぷりに弾く。楽しませて弾くんですね。あのような弾き方に少しでも近づきたいというのが夢ですね。

先生は教えるタイプではないようで教室はお持ちではないようです。昨年秋の、ある飲み会の席でトンボ楽器製作所マーケティング部主任の竹田さんとの歓談の中で望月先生の話になり、唯一先生が認めるお弟子さんがいることを知り、早速コンタクトをとってみました。

紹介して頂いた方は、片山麻や子(片山真弥子)先生と言い、アコーディオン教室で指導されていることに加え、アコーディオンを弾きながらパフォーマンスや手品をする方で、池袋の「ミュンヘン」で望月先生と一緒に仕事をする中で先生の芸を盗んだそうです。私の目指す方向の方なので、まだ約半年ですが月に2回通っています。例えば、小節の途中で蛇腹を返してはいけませんよとか、自分が歌っているように弾きなさいなど有意義なアドバイスを頂いています。

いろいろな楽しみ方があっていい

今は時間が出来たので、アコーディオン漬になってきてボランティア活動を主体にした生き方になりました。それぞれのレベルによっていろんな楽しみ方が出来るのがアコーディオンのいいところです。聴いて楽しかったよって言ってもらえる弾き方が出来たらと思っています。伴奏講座も楽しみにしています。



(写真は取材時のスナップ、弾いている楽器にはリードと電子音の切替機能が付いており、両音の同時演奏も可能)

※アンプは外付け。

記：明日もデイケア施設で演奏なさるそうです。立奏での姿勢もよく、そのような積極さが若さの秘訣ではないかと感じました。

《文責：乙津》